

## 丹波ゆかりの赤米栽培を通じた公園づくり

丹波並木道中央公園森の円卓会議・赤米チーム  
西古佐自治会会長 河南 信行  
久保木 剛 ○森井 実生

### 1. 活動方針・目的

・兵庫県立丹波並木道中央公園は平成19年(2007年)10月に開園を迎えたが、それまで約6年間、住民参加により開園後の管理運営について検討してきた(調整・検討の場として「森の円卓会議」が設置されている)。その中から公園の棚田での活動が生まれたため、管理運営と活動の一体的な活動方針・目的を掲げている。

#### ●公園(整備し管理運営する立場から)としての活動目的

- ・丹波らしい景観をつくる:丹波の「丹」の字は「赤い」の意味。赤い稲穂が風になびいて波のように見えたことから「丹波」の地名がついたという地名の謂われを生かし、公園内の棚田で赤米栽培を行う。
- ・開園前からの活動を通して公園の知名度を上げる。
- ・魅力的な農業体験プログラムを検討するなど、活動実践を通して開園後の運営を検討する。

#### ●地元自治会としての活動目的

- ・開園前から地域住民の多くが関わることで、「私たちの公園」意識を高め、地域の景観を守り育てることに役立つと同時に、開園後も公園を利用したり運営に参加するなど、積極的に関わられるようにする。
- ・都市住民や地元の新住民との交流がはかれる。
- ・関わる住民の楽しみが増え、活動がコミュニティビジネスなどの生きがいつくりにつながる

### 2. 活動内容

#### ●棚田の日々の維持管理活動

- ・公園の棚田での活動を考え実践するチームとして発足した赤米チームに地元自治会として参加。栽培物の日々の維持管理活動を行ってきた。棚田の総面積は約20a。
- ・これまでの栽培品種は、赤米(食用のベニコマン、観賞用のカンニホ)、黒豆、コスモス、菜種。

#### ●一般の方々が参加するプログラムの企画・実施

- ・1年目は赤米の田植えや稲刈りなどの農作業体験、楽しみとしてのカカシづくりや収穫祭、維持管理に関わる稲木の皮むき体験を実施。2年目、赤米に加え、黒豆を栽培し、黒豆の定植と収穫がプログラムに加わった。3年目と昨年の4年目は、棚田全体の景観形成を考え、観賞用赤米(カンニホ)、コスモス、菜種を栽培し、それに伴い一般の方々が参加しやすい農作業プログラムをさらに追加して実施した。

#### ●棚田全体の利用・演出等の検討

- ・棚田で使うワラや稲木は景観を意識した展示を、昔の農業用道具類はかやぶき民家での展示を行った。

#### ●公園内の他の活動との連携

- ・イベント等で赤米や黒豆の食事やカンニホ(ノギの美しい赤米)を観賞用に加工したもの等を提供してきた。
- ・灰づくりの材料としてワラを提供し、つくった灰を黒豆の畑に還元するなど、プログラムの連携をはかった。

### 3. 今後の課題等

#### ●開園後の活動継続の上での課題

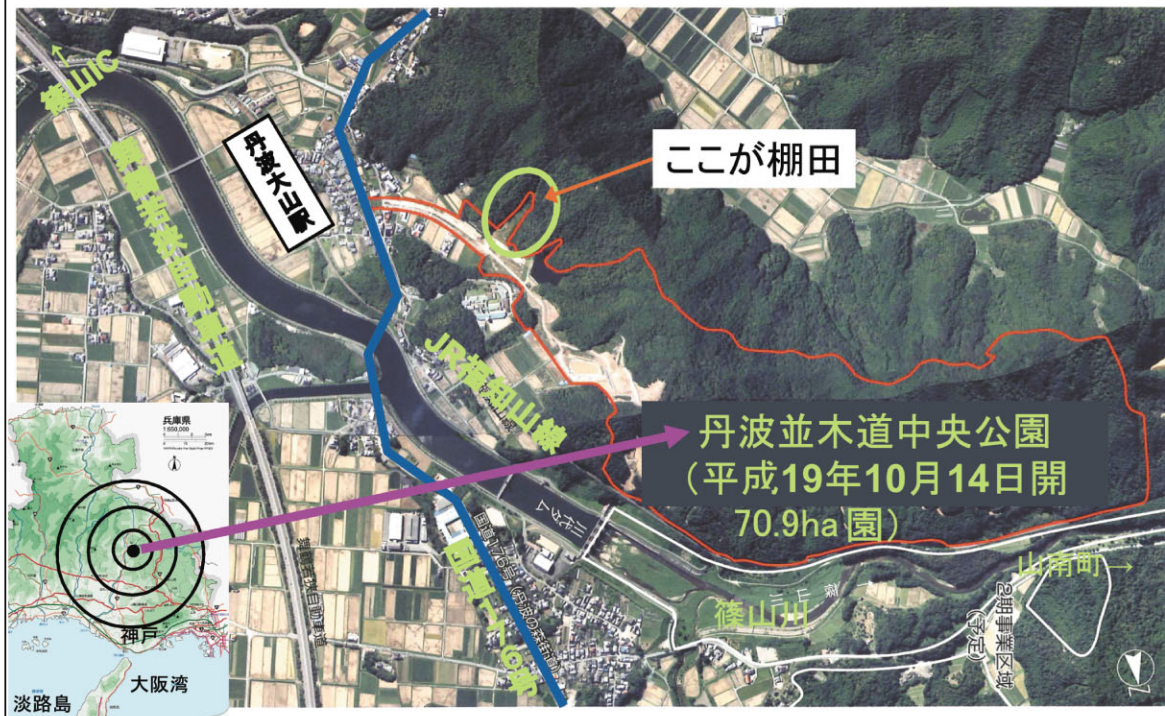
- ・収穫時期がコシヒカリと重ならない品種を早めに確保する必要があること
- ・赤米については事例や経験が少なく手探りの栽培のため、毎年試行錯誤を繰り返していること
- ・地元からのサポートで来てもらう人数の調整、若手サポーターの確保
- ・収穫物による料理教室・加工・販売の実現
- ・一般参加者とのより一層の交流、そのための棚田でのくつろぎの場の整備

#### ●今後の地域づくりに向け、配慮すべき事項

- ・開園後の活動は、開園まで4年間続けてきた活動の発展型としてあるべきだが、開園後は公園の指定管理者の管理方針の元で活動を行わなければいけないところに課題が残される。
- ・開園後も住民の参画による運営を続けるためには、住民活動にプレーキのかからない引継ぎが必要である。



## 西古佐自治会の活動フィールド 丹波並木道中央公園



## 公園の棚田で赤米をつくろう！

その目的は...

### ●公園として

- ・丹波らしい景観づくり
- ・開園前からの公園広報
- ・魅力的な農業体験プログラムの模索
- ・実践を通して公園開園後の運営を検討

### ●地元として

- ・地域の活性化、地域の景観を守り育てる
- ・都市住民や新住民との交流
- ・参加する者の楽しみ、生きがいづくり

そして、平成16年度より「田んぼで三歩」プログラムを始める

丹波の「丹」は「赤い」の意味。赤い稲穂が風になびく風景をつくりましょう！赤米にはポリフェノールもあるし、健康志向ブームにもピッタリですよ♥

平成15年度、赤米栽培を提案！



平成14年度より、丹波並木道中央公園計画協議会（現在[森の円卓会議]）にて公園の管理運営の検討を開始



## 平成19年度「田んぼで三歩Part4」 赤米栽培



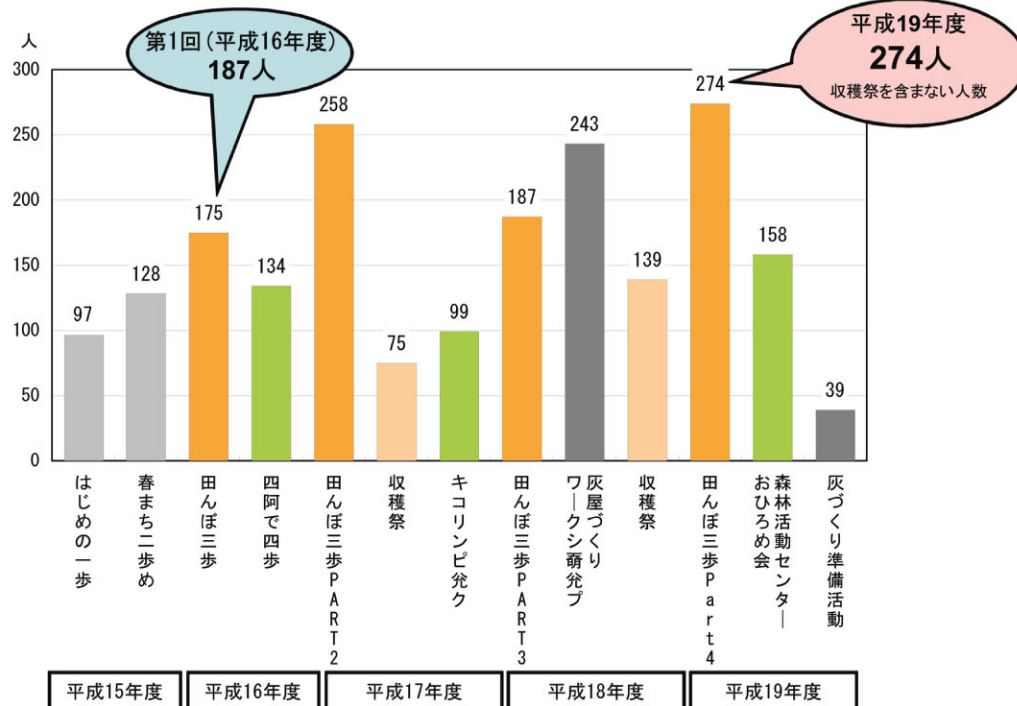
## 黒豆栽培



## コスモス栽培・カカシづくり・収穫祭



## 田んぼで三步・参加者数



## 課題・展望

- コシヒカリと収穫時期が重ならない品種の栽培
- 収穫物による料理教室・加工・販売
- 若手サポーターの確保
- 一般参加者との交流
- 棚田にくつろぎの場の整備
- 活動への評価



平成20年4月からは、開園後初めての本格的活動が始まる。新たな試行錯誤にチャレンジ!